

【会見内容】

突然の会見にお集まりいただき、ありがとうございます。

私事になりますが、今任期を持ちまして市長職を辞し、来春の市長選挙には出馬しないことを決意いたしました。その理由につきましては、これまで5期20年にわたり市民の皆様方の信託を受け、いささかなりとも市政の発展のために尽力をすることができ、大変光栄に思っているところでありますが、この期に職を辞し、一つの区切りをつけることが適切と判断したところであります。

また、第7期総合計画につきましても昨年度からスタートし、一応の道筋ができたを受け止めており、このことから今回区切りをつけ、出馬しないことにしたところであります。

今後、残された任期につきましては、しっかりと全うしたいと考えておりますので、これからも御指導御支援をよろしくお願いいたします。

【質疑応答】

（記者）

出馬をしないという決断は、非常に重いものと思いますが、いつ決断をされたのでしょうか。具体的にお願いします。

（市長）

新年度に入ってからずっと考えており、記者の皆さんにも、この秋から冬にかけて決断するという事を申し上げてきたところです。具体的にはお盆過ぎに、その決断をどうやって皆さんにお伝えするか考えていました。決断したのはお盆過ぎであります。

（記者）

決断された理由は、先ほどの総合計画の区切りがついたこと以外にも色々あるのではないのでしょうか。様々な市政の政策課題に取り組まれてきたと思いますが、区切りがついた要因となったものが他にあれば。

（市長）

20年というと2昔ということで相当な変化があり、その時その時で時代の変化や課題について挑戦をしてまいりましたが、やはり一番市長になって大きな出来事というのは、就任当時の財政再建の問題でありました。

このことは最大の懸案であり、おかげさまで市民の皆さんのご協力をいただいて、5年をかけて財政の健全化を図ることができました。この間、本当に市民の皆さんには、ごみの有料化や施設の有料化などご負担をお願いすることも含めて、大変なご理解とご支援をいただいたところで

あります。そのおかげで、予想された 112 億円の借金についても解消することができましたし、加えて財政調整基金にも 20 億円を積むことができました。

以後、財政に関しましては、財政健全化対策から財政標準化計画と名称を変えて、健全化された財政の規模や財政の内容について、これをちとせスタンダードにし、元に戻さないということで、標準化計画といたしました。財政は国の地方財政計画で左右されますので、なかなか長期にわたる計画はつくれないというのが今までの定説でした。しかしながら、そういうことを予測し計画にしようということで、健全化対策から標準化計画にいたしました。

20 年たって、まさにこの 2 年余り、コロナで財政を大きく揺るがす事態が起きましたけれども、おかげさまで健全化された財政をもって、いち早くコロナの感染症対策、あるいは影響を受けた事業者への対策、市民の皆さんに対する対策などを進めることができ、そういう意味では、健全化対策で市民の皆さんから理解をいただいたことは、本当に良かったと思っているところでもあります。この財政標準化計画も改定版をつくりましたので、これについても道筋ができたということでもあります。

それから、人口に関しましては、私が市長になったときは 8 万 9500 人でしたが、今は約 9 万 7500 人ですから、9000 人以上増えたということになります。ここ 1 年ほどコロナの影響を受けておりますが、この影響が一時的なものか、あるいはこれを回復するにはどのくらいの期間とどれくらいの、どのような手だてが必要か、今検証中でありまして、それは第 7 期総合計画の改定に向けての大きなテーマになるものと思っています。

人口 10 万人に向けて第 7 期総合計画を策定し、そして昨年度からスタートできたことは、ここ 10 年間の道筋ができたもの、このように思っているところであります。

ほかにも色々ありますけれども、大きくは市政の流れを 20 年間にわたり、ある程度一定の方向付けの中で進めることができたということであり、時々課題というのは依然としてありますし、またこれからも出てくるでしょうが、基本的な現在の市政の方向性の中で解決できるものと思っており、その意味で一つの区切りにしたいと考えたところであります。

(記者)

今後の市長選まであと半年ですが、後継者の指名について、立候補を表明された方はまだいませんがお考えは。

(市長)

次の市長につきましては、私も確たることは聞いておりませんが、私もそうであったように、最終的に市長になるかならないかは、市民の皆さんの選挙による判断によるものと思っていますので、今後の市長につきましても、市民の皆さんの判断に委ねられるべきだと思っています。

しかし、前段で申し上げましたように、私としては、第 7 期総合計画の実現を図ることが今一番重要な課題と考えておりますので、望むならばそういった市政の方向性、目指すべき市政の方

向性をよく理解し、第7期総合計画を着実に達成していただける、そういう方が市長になっていただければ望ましいと考えているところであります。

(記者)

お辞めになる理由の一つに、例えば5期という期数や、ご自身の年齢、あるいは場合によっては健康問題が入るのでしょうか。

(市長)

年齢についてはもう80歳になりましたので、俗に言う高齢者の部類であります。これまで5期20年にわたって仕事させていただいてきた大きな原動力の一つは、やはり職員の皆さんや市民の皆さんと課題を共有したこと、言葉は適切かどうかわかりませんが、仕事を楽しくさせていただいたというのが本当に大きな理由の一つであります。

当然、健康を害していれば、楽しく仕事ができなかったはずでしょうし、おかげさまで今、健康についての不安はありませんが、そういった年齢観といいますか、もし私がちょっとくたびれて、そういう様子が自分でも感じられる時は、歳だなということになるのでしょうかけれども、今までは、おかげさまで楽しく職員の皆さんと仕事をさせていただいたということです。

(記者)

先ほど、市政の方向性が出て一区切りがついたと伺いましたが、現在は、千歳市だけの問題ではないですが、ウクライナ問題や周りの環境変化により、日本の経済状況も不透明感が増しています。だからこそ市民、有権者にとっては、安定を求めたいのではないかと思います。そこをあえて新しい方になると、逆に不安になるのではないかと思います。

(市長)

私はこれを分けて考えたいと思っています。今、我が国が直面している課題は数多くあり、それは今、私たち人類が乗り越えるべきリスクであります。特に3つのことが大きなものと思っています。

まずは、コロナという感染症が全世界を考えもしなかったスピードで蔓延したということで、これはやはり人間の英知をもって必ず乗り越えていかなければならないと思っています。

それから2つ目は、ロシアによるウクライナ侵攻。世界の軍事情勢が非常に不安定になっていますが、対岸の火事、よその国のことではなく、我が国においても言えることです。専門家の間には、第3次世界戦争が起きるのではないかと発言されている方もいるように、これは本当に、世界が英知を絞って世界の軍事バランスを図ることが重要であり、我々日本人としても考えなければならない大きなリスクだと思っています。

それから、もう一つは地球の温暖化です。私たち人類が生存していくためには、これ以上地球

を温暖化させてはいけないということです。COP27 でもなかなか統一された見解は出ておりませんが、しかし最低限、上昇温度を 1.5 度に抑えるということ、これは COP26、27 でも確認されたことですから、それに向けて日本も国を挙げてやっていかなければならないと思っています。これは、私たちが今考えていかなければならない大きなリスクだと思っています。

私はその上に立ち、行政というのは政治ではありますが、市民の方々の色々な考えを集約しながら、総合的に進めていくのが行政でありますので、そういったリスクに対する対策を講じながらも、市民の方々が安全で安心して暮らしていけるような、言葉を借りれば、安定した市政を運営していくことは大変大事なことでと思っています。それがなければ市民生活、とりわけ子育て世代の方々は安心して子どもを育てるような環境ができませんので、そういった意味では、行政が安定していくということは大変大事なことでと思っています。

(記者)

だからこそ、健康には全く問題なく、言われなければ年齢相応にも見られないと思いますので、例えば人生 100 年時代と言われる将来の日本に向けて、ご自身が旗振り役として、生涯現役のような形で市長職を全うするというのも一つの考えとしてあるのでは。

(市長)

そういう考えもあると思いますが、しかしあえて私は、私ができたことでありますから、先ほど申し上げましたように、一つの方向性、ベクトルを同じくする方が市政を担っていただければ、私と同じように市政の安定や市政の発展のために尽力していただけるものと思っていますし、私の責任の一つは、そういった市政を継続している方に託すこと、これも私の大きな責務の一つだと思っていますので、そのことについては今後の展開によるものと思っています。

(記者)

先ほど課題の中で財政についてお話しされましたが、長年舵取りを担われた中で、財政以外で判断が難しかったこと、最大の懸案だったことは、どんなことがあったでしょうか。

(市長)

色々ありましたけれども、何をやるにしても市民の皆さんには色々な考えがありますので、その都度お聞きしながら進めてきました。しかし、やはり一番大きかったのは、やはり財政の健全化で、市民の皆さんにご負担をお願いすることについては大変難関でした。

その時は、例えばバスやお風呂の無料券など、特定のサービスを付与していたものを元に戻すということも含め、当時は 333 の事業を俎上に上げて、137 の事業を見直しました。

相当なことでしたが、その時の職員との合言葉は、この計画の改定版はない、計画を作ったからには必ず実行しようということで、最終的には市民の皆さんが理解をしてくれました。その証

抛に、私は 1 期目がそういう状況でありましたが、色々な意見はありましたが、2 期目もその考えで当選させていただいたのは、市民の皆さんにある程度の理解をいただいたものと思っています。

(記者)

あらためて来年は 5 期 20 年になりますが、市長ご自身にとって、この期間は長かったと思いますか。そうではなかったと思いますか。

(市長)

全然長くはなかったです。私は 10 回選挙しましたから、市議会議員、道議会議員、市長合わせて 36 年になりますが、この間はあっという間の 36 年間でした。おかげさまで健康にも恵まれたこともあります。それだけ千歳というまちが非常に良い条件に恵まれた、可能性のあるまちだということだと思います。そのため色々な仕事をして、必ず前に前に向かって進んでいくことができた。このことが私の喜びにもつながったということであり、そういう意味では本当に楽しく仕事させていただきました。

(記者)

これほど長とかじ取り役を担われることは、想定されていなかったと。

(市長)

想定していませんでした。選挙というのは、市民の皆さんが色々な考えがある中で選ぶわけですから、耳心地良いこともあれば耳障りなこと、あるいは苦しいこともたくさんある中で、押しなべて市民の皆さんがきちっと判断をしてくれるというのは非常にありがたいことです。

(記者)

今日の議会での表明の前に、例えばご自身の後援会の幹部や、あるいは有力な支援者の皆さんにはお考えを伝えたのでしょうか。

(市長)

後援会の役員会にお諮りをしまして、それは先週の火曜日です。お伝えをして、了解というか、私の意向に任せるという判断をいただきましたので、今日発表させていただきました。

(記者)

その先週の後援会の役員会では、当然慰留といいますか、もう一期続投せよという話は。

(市長)

ありがたいことに、そういう話もありました。しかし、私は、先ほど申し上げたようなことを留意して、必ず次に市長になる人がしっかりと今の方向性を保ちながら、まちの発展のために貢献してくれるものと信じていますし、また私もそのような働きかけをしていきたいと思っていると申し上げ、了解をいただきました。

(記者)

後継者の指名については、選挙での市民の判断との言葉がありましたが、先ほど第7期総合計画の実現に向け市政の方向性を理解してくれる人という後継者像をお示しになったので、今日の表明を受けて、例えばその意中の人物に水面下で背中を押すといえますか、そういう動きというのは。

(市長)

それは今後の課題だと思っています。私が今日表明したことにより、志のある方がどの程度立起表明されるかわかりませんが、そういう方々が出てきた中で、まちの発展のためにどんな考えを持っているのかをしっかりと見極めていきながら、協力できる方については協力したいと思っています。

(記者)

先ほどおっしゃった後継者像というのは、具体的にどなたかをイメージしたものではないと。

(市長)

それは今後のことでございます。

(記者)

約20年、市長を務められた中で、皆様と様々なお話しをする機会などもあったと思います。20年の中では、市内外のイベントやコロナ対策など様々なことがありましたが、特に市民の方とお話をされて、ここが一番しんどかったなと思うところ、また、逆にすごくやりがいを感じられたところはどのような場面でしたか。

(市長)

たくさんありますが、市民の皆さんとお話ということで言えば、私はおかげさまで出前講座というのを230回くらいやらせていただいています。最初に出前講座をさせていただいたのは、財政の健全化の際、市の財政状況や健全化しなければならない理由を市民の皆さんと共有しなくてはならないということで、私が出向いて市政懇談会を開催したのが始まりでした。

一通り説明をして、周囲の皆さんと色々対話ができたので、これはいいなということで、その後、町内会や団体や学校やいろんな方々と、出前講座を約 230 回することができました。

それから職員の皆さんとも昼食会を開催して、これも百何十回やりまして、コロナで少し中座をしましたが、職員の皆さんとランチを一緒にしながら、色々なことを語り合う企画も定期的に進めてきましたので、そういう意味では色々なアイディアや苦しみや楽しみを共有できたのかなと思っています。

(記者)

数え切れないくらいあると思いますが、市長の仕事をされていて良かったな、続けてよかったと思われたことや、本当に悩んだということは。

(市長)

嬉しかったことだけ申し上げますが、第 6 期総合計画策定のときには人口が 9 万 5000 でした。それを 9 万 7000 人にしようということで目標を立て、第 6 期総合計画をスタートし、2 年でその 2000 人増に到達しました。10 年間の計画を 2 年で到達したので、5 年後に見直しをして 9 万 7000 人に上方修正したのですが、それを策定から 8 年目で達成しました。この時の、市民の皆さんと一緒に目標を達成できたという喜びは非常に大きかったですね。

(記者)

人口が増えたというのは、市長にとって一つの成果であったり、嬉しい出来事なのかなと思いますが、この政策が人口増加や移住定住につながったという手応えのあるものはありますか。

(市長)

たくさんあります。自衛隊の体制強化運動をずっと続けてきていますが、これは防衛計画の大綱の改定が、私の任期中、10 年に 1 回行われるはずのところ 4 回行われたのです。その防衛計画の大綱が改定されるたびに、北海道の自衛隊、とりわけ北海道の戦車火砲の部隊が削減されるという計画になりました。それで国に対し、北海道を挙げて北海道自衛隊駐屯地等連絡協議会という組織を作ってほしい、北海道の自衛隊の体制を留めることができたのです。

これは増えたというよりも減るはずの人口を留めた、あるいは部隊の改変そのものを止めたということで、私たちの運動、当然、私たちの運動には市民の皆さんの後押しもありましたから、こういう運動を続けることが目的達成にとって非常に大きな力になったし、まちづくりというのは、本当に市民の皆さんや団体の皆さんと一緒に進めることが大切で、そのことがなければまちづくりはできないということを実感した良い例ですね。

その他にも色々ありますが、それはこれから、3 月の議会で議員の方々から検証されることだと思っており、そのときに申し上げたいと思っています。

また、お陰様で企業誘致も順調に進み、これも人口増加やまちの経済力発展のために大きく貢献したものだと思っています。

(記者)

これまでの5期を振り返ってみていかがでしたか。

(市長)

人口減少社会、少子化社会を迎える中で、千歳市が、人口が増えて活力のあるまちの一つとして発展してきたことは大変素晴らしいし、幸せなことだと思っています。また、それにあたりまして、いろいろな施策を市民の皆さんと一緒に実現できたことは無上の喜びです。

自衛隊の体制強化、企業誘致、それから大学の誘致・公立化、あるいは小学校についても、私の任期中に勇舞中学校やみどり台小学校のような新しい学校もできました。今、全国で新しい学校を造るまちは稀だと思いますが、うちでは新しい学校を造らなければならない、そういう課題が生じる非常に若々しいまちだということであり、本市が持っている可能性や発展性については、本当に市長として嬉しく思いました。

(記者)

今後、千歳市がどういったまちになってほしいと考えますか。

(市長)

これからの時代は、DXの推進、あるいはGXの推進、働き方改革など、ライフスタイルが大きく変化してくるでしょう。働き方改革が変化することによって、ライフスタイルも大きく変わってきますし、企業活動も変わってきます。そういった中で、発展するまちとして何が必要かを第7期総合計画に課題として掲げておりますが、それにつきましても、コロナという考えもしなかった感染症の発生により、第7期総合計画を修正しなければならないような事態になっております。今後も何が起きるかわかりませんので、そういったことにフレキシブルに対応できるような、機動性を持った市政の運営がこれから必要だと思っています。

市民の皆さんにも時々、お願いすることについてはしっかり丁寧にご説明しながら、協力や信頼を得られるようなそういう市民とのあり方と言いますか、まちづくりを進めていきたいと思っています。

(記者)

まだ残された任期はありますが、来春お辞めになった後、どういったことをされたいとか、ご予定などはありますか。

(市長)

決まっています。これからです。これから真剣に考えます。

(記者)

5期20年の中で、最後にご自身が何かやり残したというものがもしあれば。

(市長)

ないわけではありませんが、物事を進めていく上で常にパーフェクトはありませんので、できるだけマイナスになるものは引きずらないように、それをプラスに変えていこうということで、そういう意味で楽しくやろうと努めてきました。

今、大きな課題になっているものは、現実として物価高やエネルギー不足、人手不足など色々ありますが、そういった課題はいつの世にも起きてくることですから、それはそれなりにしっかりと解決していかななくてはならないと思っているので、そういう意味では大きな課題というのはあまりそれほど深刻には考えていません。

(記者)

千歳で生まれ育ち、JCの活動を経て政治活動となると36年プラスアルファだと思います。そういったことと、市長という舵取り役を振り返って、千歳の魅力というのはどういうところにあるでしょう。

(市長)

おっしゃるように、私は千歳で育って千歳の学校を出て千歳で就職し、そして最後は市長としてまちづくりに関わることができたことを大変嬉しく思っています。

千歳にも良いところや悪いところがあると思いますが、良いところは何ととっても桎梏性といえますか、古い因習や古い考え方が蔓延しておらず、新しい方がどんどん来られても本当に住みやすい、そういった価値観を持っているまちだと思っています。これはもう非常に、千歳のまちの一番良いところだと思っています。

反面、ややもすると問題意識が希薄なところもないわけではありませんので、やっぱりここについてはしっかりと問題意識を持っていかなければならないと思っています。そのためには、それをお互いに発見し得るような、そういう市民との関係をつくっていくことが大切だと思っていて、千歳市はまだまだ地理的にも、地政学的にも非常に発展性の伸びしろがあるまちだと思っていますので、今後とも期待したいと思っています。